

## 2024年度（2025年3月期）第2四半期決算説明会における補足説明（代表取締役社長 嶋田 泰夫）

※記載のページ番号は、決算説明会資料におけるページ番号を示しています。

### ○2024年度第2四半期決算（P3）

- 2024年度第2四半期の決算は、国際輸送事業で貨物の取扱いが減少し、また旅行事業で前年同期に自治体の支援業務などを受注していた反動があつたが、旅行事業の海外旅行部門や都市交通事業で需要の回復が見られたことや、不動産事業でマンション分譲戸数が増加したこと等により、増収・増益となった。

### ○2024年度通期業績予想（P4）

- 2024年度通期業績予想は、海外旅行の取扱いや賃貸事業の収入が当初の想定を上回ることに加えて、ホテル事業の宿泊部門やスポーツ事業が好調に推移していること等により増収を見込む。
- 一方で国際輸送事業の減益を見込むほか、上期から下期に費用の執行を繰り延べたものも相応にあり、利益は据置きとしている。保守的とのご指摘は真摯に受け止めつつも、現状の見立てではご説明のとおりであることをご理解いただきたい。

### ○長期ビジョン・中期経営計画に基づく取組の進捗状況（国内）（P5）

- 2024年度上半期のトピックをいくつか申し上げる。

＜グラングリーン大阪（うめきた2期地区開発事業）＞

- まず、国内について、長期ビジョンの戦略①「関西で圧倒的No.1の沿線」の実現に向けた取組として、うめきた2期地区開発事業「グラングリーン大阪」は、9月6日に先行まちびらきを迎え、既に多くの方々にお越しいただいている。
- 2025年3月には、阪急阪神ホテルズがアップスケールホテル「ホテル阪急グランレスパシア大阪」の開業を予定している。
- これからも、「芝田1丁目計画」（参考資料P22）の検討をさらに加速するなど、大阪梅田エリアの価値向上を目指し、様々な取組を進めていく。

＜座席指定サービス「PRiVACE（プライベース）」＞

- また、阪急京都線において7月21日にサービスを開始した座席指定サービス「PRiVACE」も、通勤の方はもちろん、観光客の方も含めて多くのお客様にご利用いただいており、計画通りの推移である。
- 「PRiVACE」はコロナ禍を契機とした移動需要の変化をいち早く捉えてサービスに展開した一例であり、今後もグループを挙げて、お客様の需要の変化を捉えたサービスを形にしていきたい。

### ○長期ビジョン・中期経営計画に基づく取組の進捗状況（海外）（P6）

- 次に、成長市場と位置付けている海外での取組について申し上げる。

＜オーストラリアにおける不動産事業の拡大＞

- まず、海外不動産事業について、オーストラリアにおいて、新たにシドニー市近郊の住宅分譲事業「メルローズパーク」や、4都市11物件、43棟の物流不動産事業「LACPプロジェクト」に参画した。
- 当社グループでは、これまで経済成長が続くASEANを中心に海外不動産事業を展開してきたが、近年は、これに加えて、不動産の流動性が高く、圧倒的な市場規模を有するアメリカや、安定的な人口増加と経済成長が見込め、こちらも不動産市場の流動性が高いオーストラリアといった先進国で事業を展開し、リスクを分散するとともに、事業フィールドの拡大に努めている。
- 今回の2プロジェクトへの参画も、こうした取組の一環であり、もう少し先進国の事業規模を拡大していきたい。
- これからも海外不動産事業の事業規模をさらに拡大していく計画であり、展開エリアやアセットタイプ、ストック型とフロー型の事業の割合など、海外不動産事業全体のポートフォリオやキャッシュアロケーションについて考え方を整理していく。

＜海外鉄道事業への本格参入＞

- 2024年5月に、フィリピンのマニラ首都圏に約20kmの路線を持つ都市旅客鉄道「LRT1号線」の運営・保守事業を行う企業の株式を阪急電鉄が取得した。
- フィリピンは人口増が著しく、東南アジアでは珍しく民営鉄道が運営されている国である。阪急電鉄が培ってきた鉄道の運営・保守の実績と経験を活かして、路線の運営・保守に関する改善の提案や、新技術及びノウハウの導入に必要な情報の提供など、鉄道事業に係る技術支援を行うとともに、既に展開している不動産事業も含めて同国の発展に寄与していきたい。

## ○サステナブル経営の推進に向けた取組状況（P6）

- ・ 阪急電鉄・阪神電気鉄道では、2025年4月から、鉄道事業で使用する全ての電力を実質的に再生可能エネルギー由来の電力に置き換え、CO2排出量が実質ゼロとなるカーボンニュートラル運行を開始する。
- ・ 鉄道は元々他の輸送手段と比べて低炭素な輸送モードである。当社グループでは、社会の脱炭素化に向けて、これからも公共交通ネットワークの拡充に努めるとともに、お客様に鉄道が環境優位性の高い移動手段であることをさらに広くご理解いただき、鉄道の利用が環境負荷の軽減につながることを訴求していきたい。

## ○宝塚歌劇の改革等に関する取組の進捗状況（P7）

- ・ 宝塚歌劇の改革に向けた各種の取組は着実に進めており、その進捗状況については、宝塚歌劇ホームページでも随時公開している。併せて、グループとしてより実効性の高いガバナンス体制の構築に向けて、宝塚歌劇団の組織形態や体制のありようについて検討を行っている。
- ・ また、昨年来、労働基準監督署の調査を受けていたが、2024年9月に是正勧告書を受領した。内容を重く受け止め、監督官庁や専門家の指導も受けながら、速やかに改善に取り組む。
- ・ なお、阪急電鉄に設置したアドバイザリーボードは、これまで3回の全体会合を開催した。このほか、随時助言・提言を頂戴しており、それらを踏まえて引き続き改革を推し進めていくとともに、中長期的な視点に立った施策の検討を加速し、今年度中を目途に考え方を整理する。
- ・ これらを通じて、これからも、宝塚歌劇の運営に携わる全ての関係者が安心してより良い舞台づくりに専念できる環境の整備を進めるとともに、グループ全体としてより実効性の高いガバナンス体制を整えていく。

以 上